

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(石油:<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>)

マイライブラリー:0420

(注)本稿は2017年8月13日から24日まで7回に分けて「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

## **五大国際石油企業2017年4-6月期決算速報(付 JXTG グループ業績)**

2017.8.28

前田 高行

目次	頁
1. 五社の4-6月期業績比較	2
2. 2016年第2四半期以降の四半期別業績の推移	7

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の4-6月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合及び上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

なお今年4月に正式に発足したJXTGホールディングスの最初の4-6月期決算が同時に発表されている。同社は旧日本石油と三菱石油の合併に始まり、その後共同石油・日本鉱業グループとの合併及び東燃グループとの合併を経て成立した日本最大の石油企業グループである。同社初の四半期決算の売上高は2.2兆円、年間ベースでは9兆円に達する製造業としては日本最大級の企業グループである。

同社は石油・天然ガスの開発・生産(上流部門)から石油精製・販売(下流部門)を包含する総合エネルギー企業である。本稿で比較する数値が示すように、五大国際石油企業に比べるとその業績には大きな格差があるが、参考のため比較可能な項目について概要を示すこととする。(円とドルの換算レートは1ドル=110円とした)

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<http://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-earns-34-billion-second-quarter-2017>

Shell:

<http://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2017/second-quarter-2017-results-anno>

[uncement.html](#)

BP:

<http://www.bp.com/en/global/corporate/media/press-releases/second-quarter-2017-results.htm>

↓

Total:

<http://www.total.com/en/media/news/press-releases/second-quarter-and-first-half-2017-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-second-quarter-net-income-of-1-5-billion>

JXTG ホールディングス:

[http://www.hd.jxtg-group.co.jp/ir/library/statement/2017/pdf/jxtg\\_jp\\_ts\\_fy2017\\_1q.pdf](http://www.hd.jxtg-group.co.jp/ir/library/statement/2017/pdf/jxtg_jp_ts_fy2017_1q.pdf)

(注)五社の前期(2017年1-3月期)、2016年通期及び2009年から2016年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

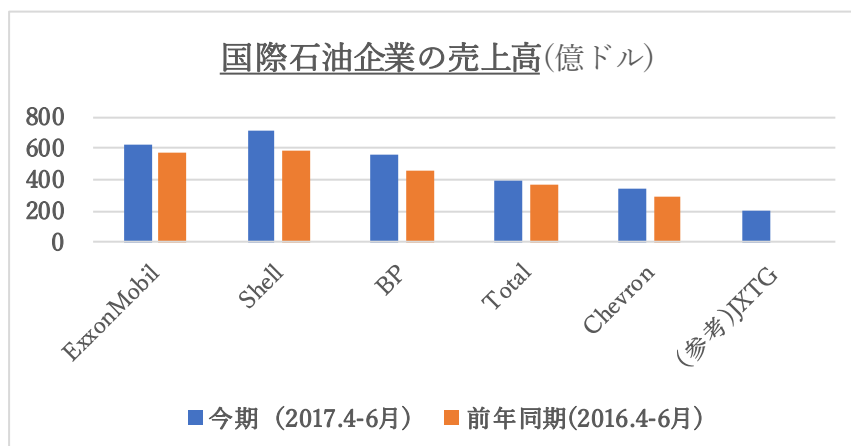
<http://mylibrary.maeda1.jp/0410OilMajor2017-1stQtr.pdf>

<http://mylibrary.maeda1.jp/0401OilMajor2016.pdf>

#### 1. 五社の4-6月期業績比較 (末尾表 1-D-4-22 参照)

五社を横並びで比較すると売上高、下流部門利益及び設備投資額では Shell がトップである。しかし総合利益、売上高利益率および原油と天然ガスを合計した生産量の各部門では ExxonMobil がトップである。また上流部門利益では Total が最も高く、この部門では Shell が5社の中で唯一欠損を出している。原油生産量では ExxonMobil がずば抜けて大きく、天然ガス生産量では ExxonMobil が Shell をわずかに上回り、他の3社を大きく引き離している。

#### (1) 売上高



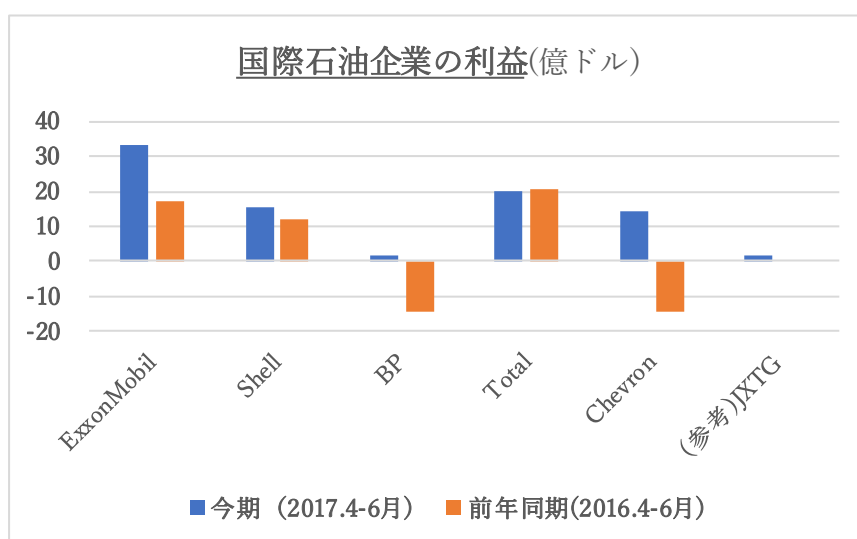
2017年4-6月の売上高は5社ともに前年同期より増加した。各社の売上高および対前年同期の増加幅は、ExxonMobil が629億ドル(9%増)、Shell721億ドル(24%増)、BP 565億ドル(22%増)、Total 399億ドル(7%増)、

Chevron 345億ドル(18%増)であった。

各社の増収率はいずれも原油・天然ガス生産量の増加率(別項参照)を上回っている。これは今期の原油ガス販売単価が昨年の同期よりも高くなったことによる。因みに販売単価を Shell の決算資料で見ると、昨年第2四半期はバレル当たり平均39.31ドルであったものが、今期は45.62ドルと16%アップしている。2011年あるいは2012年のピーク時には年間平均価格が100ドルを超えたが、昨年第二四半期はその時の3分の1であり、今期は2分の1である。原油価格の上昇がそのまま各社の売上高の増加に反映されたと言えよう。

JXTG の2017年4-6月期の売上高は2兆2,252億円(206億ドル)であった。これは国際石油企業5社で売り上げが最も大きい Shell(721億ドル)の3割であり、また売り上げが最も少ない Chevron (345億ドル)の6割である。

## (2) 総合利益



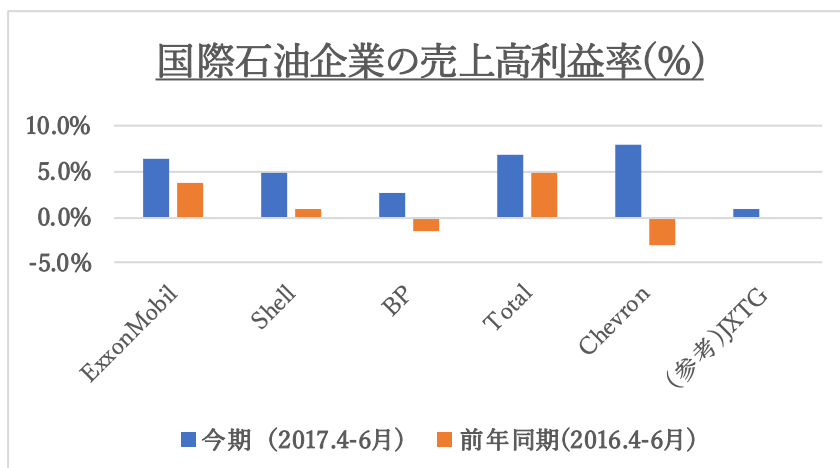
前年同期は BP と Chevron の2社は欠損であったが、今期は5社ともに利益を計上している。利益額が5社の中で最も大きいのは ExxonMobil の34億ドルであり前年同期(17億ドル)の2倍である。ExxonMobil に次いで利益が多いのは Total の20億ドルであるが、前年

同期比では若干の減益である。Shell と Chevron の利益は共に15億ドル前後であるが、前年同期に比較すると Shell は32%の増益で、Chevron は前年同期の15億ドルの欠損から大幅に改善している。BP は前年同期は Chevron とほぼ同じ14億ドルのマイナスであり、今期は1億ドルの利益に転じているが、他の4社に比べると利益水準は著しく低い。

なお JXTG の四半期利益は200億円(1.9億ドル)であり利益面では BP を上回っている。

## (2) 売上高利益率

売上高利益率は ExxonMobil が5.3%と最も高く、Total 5.1%、Chevron 4.2%、Shell 2.1%と続いている。利益率が最も低いのは BP の0.3%である。前年同期は Chevron が-5.0%と最も低く、BP の利益率もマイナス(-3.1%)で、もっとも高い利益率を誇った Total は5.6%であった。今期は全社が利益を計上したが、利益率は ExxonMobil、Shell が5%台であったのに対し Shell、BP は両社との格差が大きい。



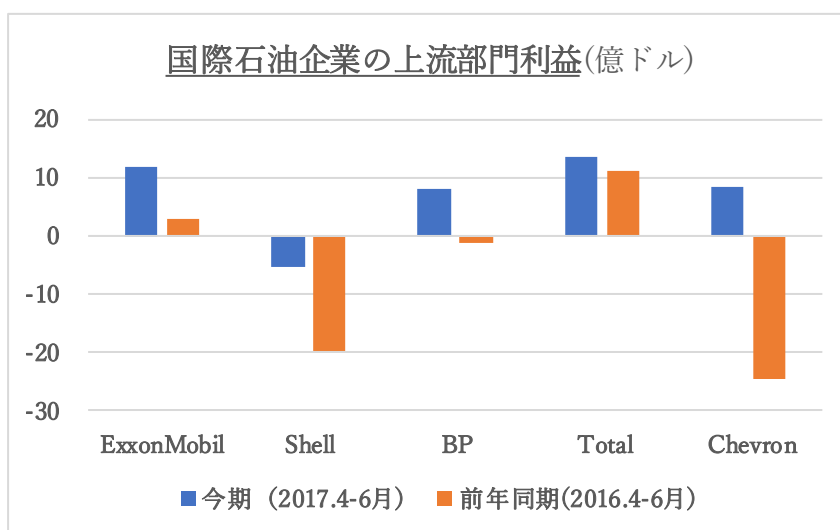
売上高利益率は ExxonMobil が5.3%と最も高く、Total 5.1%、Chevron 4.2%、Shell 2.1%と続いている。利益率が最も低いのは BP の0.3%である。前年同期は Chevron が-5.0%と最も低く、BP の利益率もマイナス(-3.1%)で、もっとも高い利益率を誇った

Total は5.6%であった。今期は全社が利益を計上したが、利益率は ExxonMobil、Shell が5%台であったのに対し Shell、BP は両社との格差が大きい。

JXTG の売上高利益率は0.9%にとどまっております、BP よりは良いが ExxonMobil、Total、Chevron などに比べて大きく見劣りする。

#### (4) 上流部門と下流部門の利益

##### (a) 上流部門



利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、まず上流部門では前年同期は Total と ExxonMobil の2社は利益を計上したが、その他の3社はマイナスであった。今期は Shell が引き続き欠損であったが、他の4社は利益を計上し

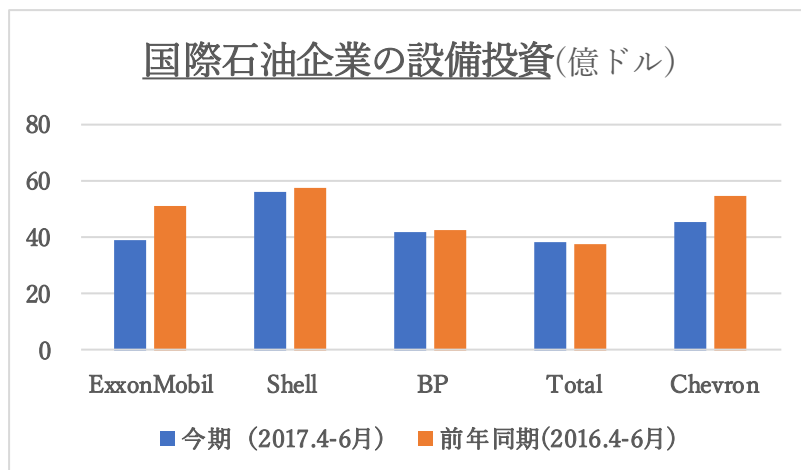
ている。この1年の間に原油価格が改善したこと、及び各社が上流部門の投資ポートフォリオを見直したことにより各社とも上流部門の損益が好転していると言えよう。

5社の中で今期の上流部門の利益が最も多かったのは Total の14億ドルでこれに次ぐのが ExxonMobil 12億ドルであり、Chevron 及び BP が8億ドル前後で並んでいる。Shell のみは今期も5億ドルの赤字を計上している。

JXTG の上流部門の利益は31億円であり、ドルに換算すると29百万ドルとなる。これは Total あ

るいは ExxonMobil の2%程度であり、また BP、Chevron の4%どまりである。後述する生産量の比較で示すが、JXTG の石油・天然ガスの生産量は国際石油企業5社に比べ30分の1以下であり、これが利益面でも大きな格差となっている。

#### (b)下流部門



下流部門は今期も好調で全社利益を計上している。利益額が最も大きいのは Shell の22億ドルであり、次いで BP が16億ドルの黒字を計上している。その他の3社の下流部門の利益は、ExxonMobil 14億ドル、Chevron 12億ドル、Total 9億ドルである。前年同期比では各社で明暗が分かれた。

ExxonMobil は70%の増益であり、また Shell 及び BP も増益であるが、Chevron 及び Total の2社は前年同期より利益が減少している。下流部門は原油価格の上昇が原料のコストアップとなり上流部門とは正反対の効果をもたらすことになるが、製品価格への転嫁、製油所の効率化・集約化など企業努力の結果が各社の下流部門の業績に反映しているようである。

JXTG の下流部門の利益は225億円(2億ドル)であり、五社の5分の1から10分の1程度とかなり低い水準である。日本の石油産業は構造的な過剰設備と過当競争のため製品末端価格の利幅が小さく利益の出にくい体質である。その対策として今回の JXTG の合併のように設備の集約化と薄利多売の改善を図り、あるいは一部の企業は東南アジアへの進出を進めている。日本のエネルギー産業のためには安定して収益を上げることができる強い体質を築き、世界の石油企業に伍していくことが望まれる。

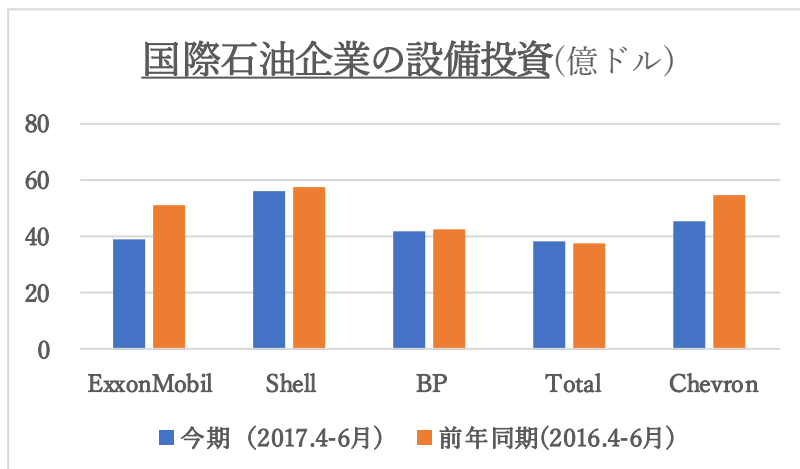
なお冒頭(1-(2))の総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

#### (c)上流部門と下流部門の比較

各社の上流部門と下流部門の損益を比較すると、ExxonMobil、Shell、BP 及び Chevron の4社は下流部門が上流部門を上回り、Total のみは上流部門の利益が下流部門のそれを上回っている。かつて石油価格が高かった時代は国際石油企業は利益の大半を原油・天然ガスの生産(上流部門)で稼ぎ、精製、石油化学など(下流部門)の低収益を補うという収益構図であった。その後昨年前半までの約2年間は原油価格が大幅に下落したため収益構造が逆転、上流部門の利益が急減する一方、精製、石油化学部門は原料の原油・天然ガス価格が急落したため利益の出る体質に変化した。しかし、昨年後半以降は原油・天然ガス価格が持ち直しており、各社とも上流部門と下流部門

の収益が変動しつつあり、それが今期の決算に表れたと言えよう。

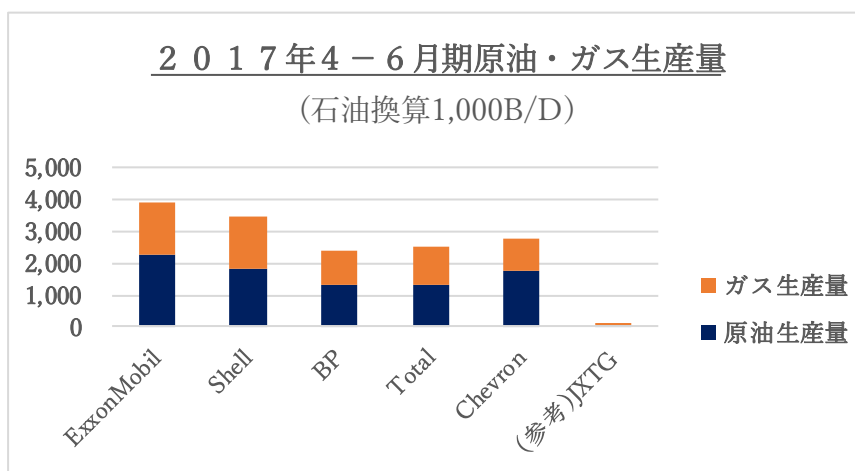
### (5)設備投資



2017年4－6月期の各社の設備投資額は Shell が57億ドルと最も多く、これに次ぐのが Chevron の45億ドルである。その他の3社は、BP42億ドル、ExxonMobil39億ドル、Total38億ドルと40億ドル前後で並んでいる。Totalが1.5%の微増であるが、その他の4社はいずれも前年同期を下回っており、特に

ExxonMobilは前年同期の52億ドルから24%減少しており、Chevronも前年同期比18%減である。ShellとBPは2%減にとどめている。石油価格が上昇し資金に余裕が出ているが、石油の需要そのものが伸びないため、各社とも設備投資に対する慎重な姿勢が続いているようである。

### (6)原油・ガス生産量 (表 1-D-4-22 参照)



今年4－6月の原油生産量はExxonMobilが平均日産量227万バレル(以下 B/D)で5社の中では最も多い。その他の4社はいずれも200万B/D以下であり、Shellが181万B/D、Chevron 175万B/D、BPは135万B/D、TotalはExxonMobilの6割弱の1

30万B/Dで5社の中では最も少ない。ExxonMobilは世界各地で万遍なく原油生産をおこなっており他社を圧倒している。前年同期と比較するとBPは23%増と5社の中では飛び抜けて増加し、Shell、Total、Chevronはいずれも4%の増産となっている。ExxonMobilは2.6%減と5社の中で唯一生産量が落ちている。

天然ガスの生産量はShellとExxonMobilがそれぞれ99億立方フィート(以下 cfd)、97億cfdである。これに対して他の3社はTotal65億cfd、BP63億cfd、Chevron62億cfdと並んでおり、ShellあるいはExxonMobilの6割強にとどまっている。前年同期に比べるとChevronが23%、BPが9%増加しており、ExxonMobil及びTotalは横ばい、Shellは5%減少している。

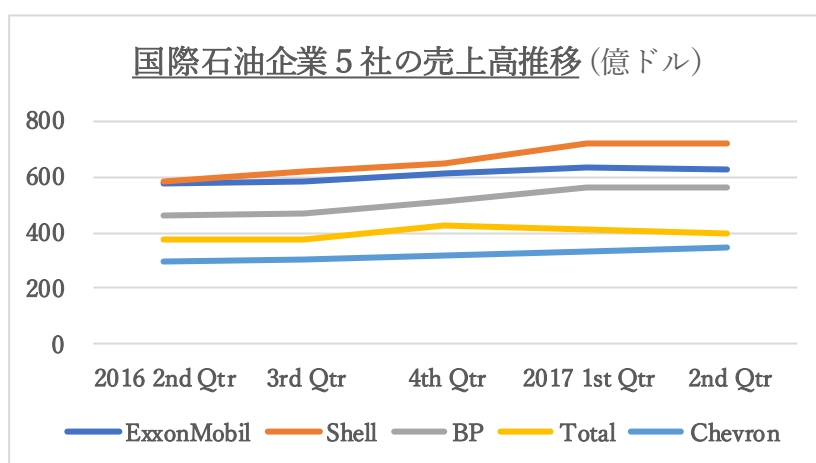
天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量では ExxonMobil は392万 B/D でこれに次ぐのが Shell の350万 B/D である。その他の3社は Chevron278万 B/D、Total250万 B/D、BP 243万 B/D であり ExxonMobil あるいは Shell の7割前後である。石油と天然ガスの比率を見ると、5社はいずれも石油の比率が高いが、その中でも Chevron は石油63%、天然ガス37%であり5社の中では石油の比率が最も高い。BP 及び ExxonMobil はそれぞれ石油56%:天然ガス44%、石油58%:天然ガス42%である。Total は5社の中では石油と天然ガスの比率が最も拮抗しており、石油52%、天然ガス48%である。

JXTG の決算資料では石油生産量4.5万 B/D、天然ガスを加えた合計の生産量は10.7万 B/D である。同社の石油と天然ガスの比率は42%対58%であり、天然ガスの比率が石油のそれを上回っている。ただ国際石油企業と比較した場合、JXTG の生産量は ExxonMobil の3%に過ぎず、規模の格差は歴然としている。

## 2. 2016年第2四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、原油・天然ガス生産量に関する2016年4-6月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

### (1) 売上高の推移



2016年第2四半期から2017年第2四半期に至る四半期ベースの売上高は昨年末までは原油価格の回復を受けて各社とも増収基調にあったが、Total が昨年第4四半期以降は下落傾向に陥ると、ExxonMobil、Shell 及び BP の3社も今年第1四半期をピークに停滞また

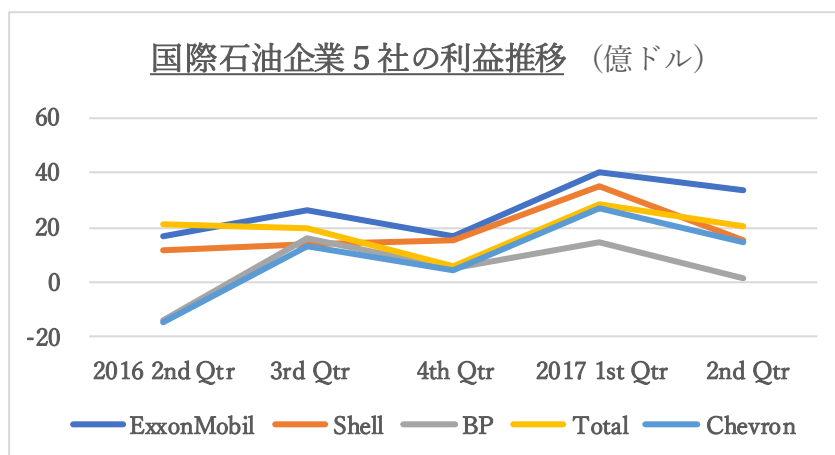
は下降気味であり、Chevron は過去1年間増収が続いている。

各社の推移は Shell が584億ドル('16 2<sup>nd</sup> Qtr)→619億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)→648億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→718億ドル('17 1<sup>st</sup> Qtr)→721億ドル(2<sup>nd</sup> Qtr)と5期連続で売り上げトップを続けている。これに次ぐのが ExxonMobil でありその売上高は577億ドル('16 2<sup>nd</sup> Qtr)→587億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)→610億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→633億ドル('17 1<sup>st</sup> Qtr) →629億ドル(2<sup>nd</sup> Qtr)である。ExxonMobil は2016年第二四半期にそれまでの売上トップの座を Shell に譲ったが、それ以降両社の格差は広がる傾向にあり、前期、今期と続けて80億ドル強の差がついている。

この間の四半期平均原油価格(1バレル当たり)の推移を Shell の決算資料で見ると39.31ドル

( ' 16 2<sup>nd</sup> Qtr)→40. 43ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)→44. 54ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→48. 36ドル(' 17 1<sup>st</sup> Qtr) →45. 62ドル(2<sup>nd</sup> Qtr)であり、今年第 I 四半期まで価格回復が続いたが、今期は前期に比べ6%ほど下落している。この価格の変動が各社の売上高の推移に反映していると言えよう。

## (2)利益の推移



過去1年間の四半期ごとの利益水準は各社によって異なるものの、全体を通してみると四半期ごとに増益と減益を繰り返しており今期は5社とも対前期比で減益となっている。なお昨年第2半期に BP と Chevron が損失を計上した以外は今期まで各社は

いずれも利益を計上している。

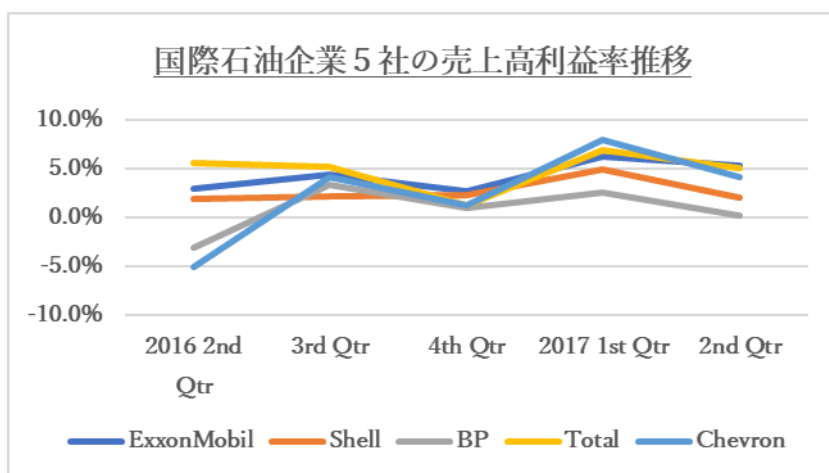
5社の中で安定して高い利益を計上しているのは ExxonMobil である。同社の利益の推移は17億ドル→27億ドル→17億ドル→40億ドル→34億ドルである。2016年第二四半期に Total を下回った以外は5社のトップを維持している。ExxonMobil に続くのは Shell であり、同社は2016年第二四半期の利益12億ドル以降14億ドル→15億ドル→35億ドルと推移し、今期は大きく落ち込んで15億ドルと Total を下回る水準にとどまっている。

BP と Chevron は2016年第二四半期にほぼ同額の15億ドルの欠損を出した後、続く第三四半期には両社とも利益に転じている。しかし今年第1四半期には Chevron が大きく利益を伸ばして Total とほぼ同額になったが、BP は前年第三四半期の利益水準を下回る14億ドルであり、今期は5社の中では最低の1億ドルにとどまっている。売り上げ規模では BP は5社中の3位であるが(上記(1)参照)、利益水準は低い。

## (3)売上高利益率の推移

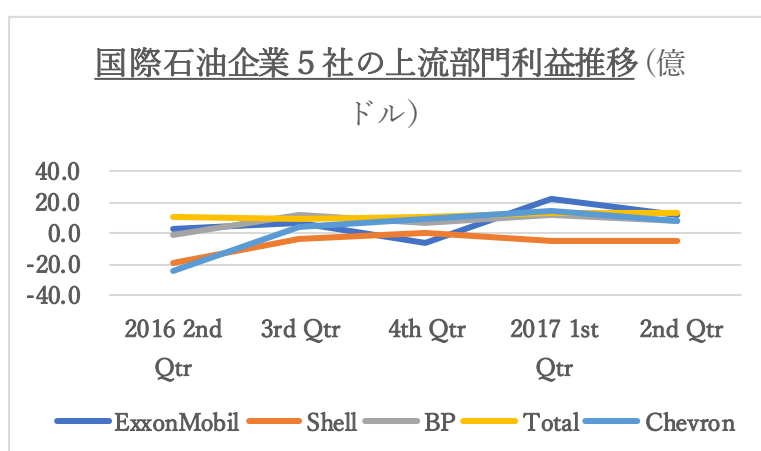
1年前の昨年第二四半期の五社の利益率は大きな格差があり、最も高い Total は5. 6%、これに次ぐのが ExxonMobil 2. 9%、Shell 2. 0%であり、BP 及び Chevron は共にマイナスの利益率(BP: -3. 1%、Chevron: -5. 0%)であった。第三四半期には全社プラスに転じ、最高が Total の5. 2%、最も低い Shell が2. 2%と大きな差は見られない。続く第四四半期も各社利益率は団子状態であったが、今年第1四半期には各社の利益率に大きな格差が生まれ、最高は Chevron の8. 0%で、Total (6. 9%)、ExxonMobil (6. 3%)がこれに続き Shell は4. 9%であり、利益率が最も低かったのは BP の2. 6%であった。5社の格差は今期も継続し、ExxonMobil と Total が5%強、Chevron 4. 2%の利益率に対し、Shell は2%強、BP は0. 3%にとどまっている。





#### (4) 部門別利益の推移

##### (4-1) 上流部門



前年の2016年第2四半期の各社の上流部門の利益は Total 及び ExxonMobil はそれぞれ11億ドル及び3億ドルの利益を計上したが、残る3社は BP -1億ドル、Shell -20億ドル、Chevron -25億ドルの欠損であった。続く第3四半期は Shell のみが欠損で他の4社は利益を計上している。Shell は第4四半期にわずかな

利益に転じたものの今年の第1及び第2四半期は再び欠損を計上、昨年から今年にかけて同社の上流部門は不振を続けている。

一方 ExxonMobil は昨年第4四半期に6億ドルの欠損を出した後、今年の上半期は1-3月に23億ドル、4-6月に12億ドルと2期続けて二桁の利益を計上している。BP と Chevron は昨年第3四半期以降は4期連続で利益を出している。5社の中で上流部門が最も安定しているのは Total であり、5期連続で9~14億ドルの利益を計上している。

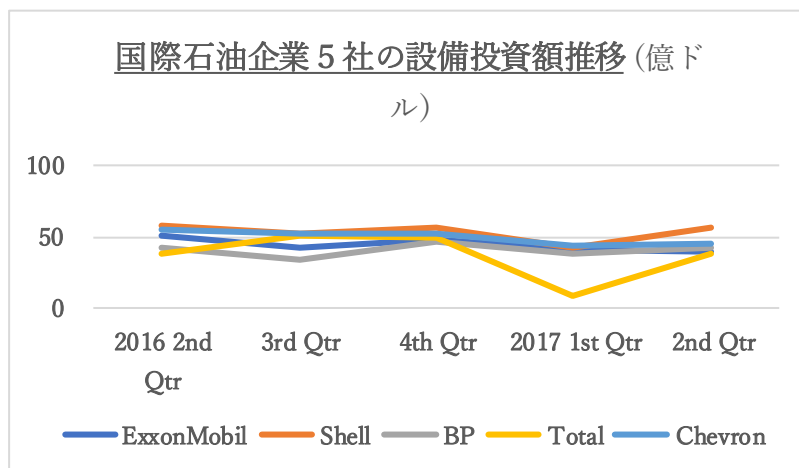
##### (4-2) 下流部門

下流部門は上流部門と逆に Shell が最も安定した利益を計上している。Shell の2016年第2四半期の利益は17億ドルであった、第3四半期以降も16億ドル→16億ドル→26億ドル→22億ドルと15億ドル以上の利益をコンスタントに出している。

Shell に限らず他の4社も上流部門は5期連続で利益を出しており、ExxonMobil の場合は8億ドル(16年第2 Qtr)→24億ドル(第3 Qtr)→12億ドル(第4 Qtr)→11億ドル(17年第1 Qtr)→14億ドル(第2 Qtr)とそれぞれ利益を計上している。

各社の下流部門の決算が堅調な理由は昨年以降原油価格が50ドル前後で比較的安定的に推移したことに加え、各社が精製装置の稼働率向上につとめ、また世界景気が底堅さを維持し石油製品の販売が堅調に推移したためであろう。

### (5) 設備投資の推移



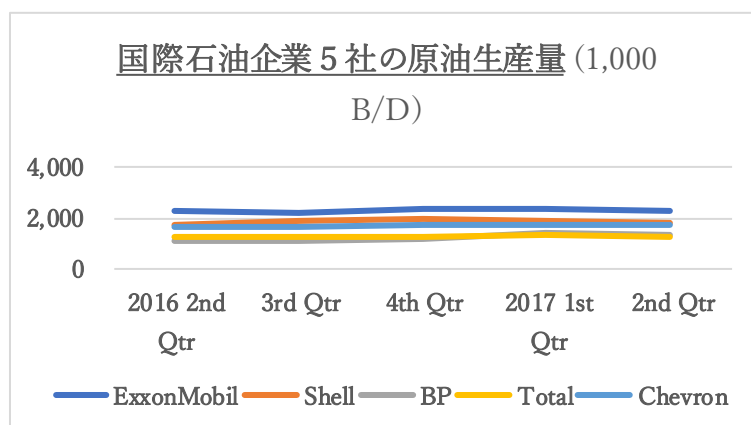
5社の四半期ベースの設備投資額は60億ドルを下回る低い水準が続いており、また前期までは期を追うごとに投資額が減少する傾向にあった。Shellは5社の中で設備投資が最も高く2016年第2四半期には58億ドルであったがその後2017年第1四半期には43億ドルにとどまっている。但し今期の投資額は57億ドルであり1年前の水準に戻っている。Chevronは今年第1四半期までShellとほぼ足並みを揃えていたが、今期の設備投資は前期の横ばいにとどまっている。

ExxonMobilは常に5社の中位を前後しているが、投資額は昨年第2四半期の52億ドルをピークに連続して減少しており今期は39億ドルとなっている。

ExxonMobilは常に5社の中位を前後しているが、投資額は昨年第2四半期の52億ドルをピークに連続して減少しており今期は39億ドルとなっている。

### (6) 原油・天然ガス生産量の推移

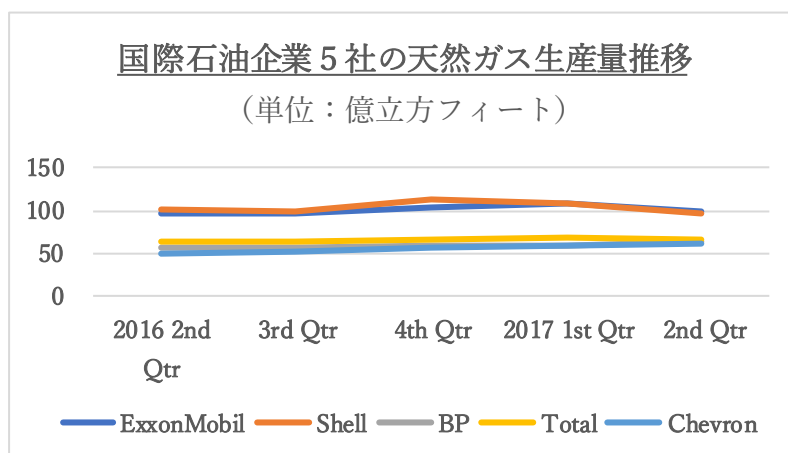
#### (6-1) 原油生産量



過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見るとExxonMobilが他社を引き離してトップを維持しており、ShellとChevronが2番手グループ、BPとTotalがほぼ同じ生産量で3番手グループである。首位のExxonMobilの生産量は5社の中でただ1社200万B/D台の生産量であるが2016年第4四

半期以降はわずかながら低落傾向にある。これはShellも同様であり、同社の場合過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移は175万B/D→187万B/D→195万B/D→187万B/D→181万B/DでありExxonMobilのほぼ8割の生産量である。5社の中で生産量が少ないのはBPとTotalであり、両社は共にExxonMobilの7割前後の水準である。

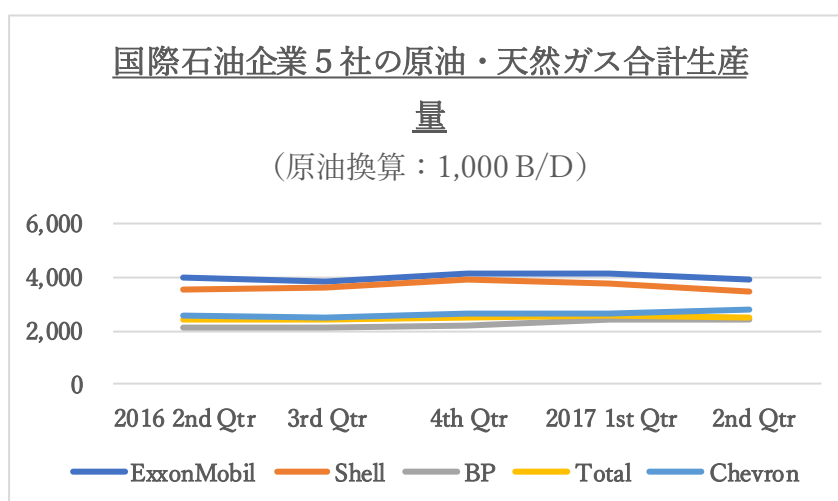
## (6-2) 天然ガス生産量



天然ガスの生産量は ExxonMobil と Shell の上位グループと BP、Total、Chevron の下位グループの2極に分かれており、上位2社がコンスタントに日量100億立方フィート前後を生産し続けているのに対して Total、BP 及び Chevron は50～60億立方フィート台の生産量にとどまっている。

年間の推移を見ると今年第1四半期までは全社が微増傾向であったが、今期(第2四半期)は ExxonMobil、Shell 及び Total の3社は前期比で生産量が減衰しており、ExxonMobil と Shell の生産量は100億立方フィートを切っている。天然ガスは世界各国の既生産鉱区の M&A が活発であり、また米国のシェールガス生産は原油価格の変動に敏感に反応する傾向がある。したがって今後5社の生産水準がどのように推移するかは予断を許さない。

## (6-3) 原油・天然ガス合計生産量



天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見ると ExxonMobil は昨年第2四半期の生産量は396万 B/D であった。同社の生産量は昨年第4四半期に400万 B/D を突破、前期(2017年第1四半期)は415万 B/D を記録したが、今期は392万 B/D にとど

まっている。Shell は ExxonMobil を50万 B/D 前後下回る生産水準であり、今期は昨年第2四半期と同じ350万 B/D である。

ExxonMobil、Shell に次ぐ第3位の生産量を誇るのは Chevron であり、同社の2016年第2四半期生産量は253万 B/D であったが、今期の生産量は1割増の278万 B/D である。Total は Chevron に次ぐ250万 B/D 前後の生産を続けており、BP は5社のなかで生産量が最も少なく今年に入ってから240万 B/D 前後である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

## 2017年4-6月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron	(付)JXTG
売上高(百万ドル)	2017年4-6月	62,876	72,131	56,511	39,915	34,480	20,604
	前年同期	57,694	58,415	46,442	37,215	29,282	
	増減(%)	9.0%	23.5%	21.7%	7.3%	17.8%	
総合損益(百万ドル) (*)	2017年4-6月	3,350	1,545	144	2,037	1,450	186
	前年同期	1,700	1,175	▲ 1,419	2,088	▲ 1,470	
	増減(%)	97.1%	31.5%	-110.1%	-2.4%	-198.6%	
上流部門損益(百万 ドル)(*)	2017年4-6月	1,184	▲ 544	795	1,359	853	29
	前年同期	294	▲ 1,974	▲ 109	1,127	▲ 2,462	
	増減(%)	302.7%	-72.4%	-829.4%	20.6%	-134.6%	
下流部門損益(百万 ドル)(*)	2017年4-6月	1,385	2,157	1,567	861	1,195	204
	前年同期	825	1,717	1,405	1,018	1,278	
	増減(%)	67.9%	25.6%	11.5%	-15.4%	-6.5%	
売上高利益率(%)	2017年4-6月	5.3%	2.1%	0.3%	5.1%	4.2%	0.9%
	前年同期	2.9%	2.0%	-3.1%	5.6%	-5.0%	
設備投資(百万ドル)	2017年4-6月	3,925	5,660	4,181	3,845	4,538	
	前年同期	5,158	5,796	4,283	3,790	5,523	
	増減(%)	-23.9%	-2.3%	-2.4%	1.5%	-17.8%	
原油生産量 (1,000B/D)	2017年4-6月	2,269	1,814	1,352	1,298	1,751	45
	前年同期	2,330	1,745	1,102	1,253	1,689	
	増減(%)	-2.6%	4.0%	22.7%	3.6%	3.7%	
ガス生産量(100万 cfd)	2017年4-6月	9,920	9,747	6,260	6,500	6,171	
	前年同期	9,762	10,226	5,733	6,466	5,031	
	増減(%)	1.6%	-4.7%	9.2%	0.5%	22.7%	
同石油換算 (1,000B/D)	2017年4-6月	1,653	1,681	1,079	1,202	1,029	62
	前年同期	1,627	1,763	988	1,171	839	
	増減(%)	1.6%	-4.7%	9.2%	2.6%	22.6%	
原油・ガス合計生産 量 (石 油換算 1,000B/D)	2017年4-6月	3,922	3,495	2,431	2,500	2,780	107
	前年同期	3,957	3,508	2,090	2,424	2,528	
	増減(%)	-0.9%	-0.4%	16.3%	3.1%	10.0%	

\* 総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。